

地域の一人ひとりの力で 創り上げる総合型地域スポーツ・文化クラブ

東京都教育委員会では、平成14年7月に「東京スポーツビジョン」を策定、だれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことのできる社会を築くことを目指しています。その施策の一つとして平成14年度から文部科学省の委嘱を受け、都民の日常的なスポーツ活動の場として、子どもから大人まで、高齢者や障害者を含む全ての都民が参加できる「地域スポーツクラブ」の設立・育成を支援しています。今回、地域が支えるスポーツクラブとして二つの事例をご紹介します。

東深沢スポーツ・文化クラブ **世田谷**

東深沢スポーツ・文化クラブは、地域の人々がスポーツや文化活動を通じて、「児童、生徒の健全育成」と「豊かな地域社会づくり」をめざして平成14年4月に設立されました。世田谷区立東深沢中学校を拠点にして学校の深い理解と援助に支えられながら、土日を中心に子どもと大人が一緒になって楽しむことができる地域のためのクラブであることを重視した活動をしています。会員の年齢層は、子どもからお年寄りまで幅広く、就いている職業も自営業の方からサラリーマンと様々です。活動しているクラブはスポーツと文化合わせて19、会員は500人を越えています。

このクラブの運営は、地域のコミュニティ団体、体育指導委員、青少年委員、PTA、町会などで構成される運営委員会が行っており、すべてボランティア活動によって支えられています。クラブの指導は全て地域の方々のボランティアですが、その他にも、イベントで使う道具は工務店の方が作ってくれたり、会報の印刷に印刷屋さんが協力してくれたりしながら、クラブ運営が支えられています。もともこの地域には、10年ほど前、東深沢中学校のPTAのOBが中心になって、子どもたちのために地域でできることをやろうと、「東深沢・等々力コミュニティ」という団体がつくられていました。防災訓練やウォークラリー、フリーマーケットなどをしながら、次第に親同士や町会など地域の人々とのつながりがつくられていました。

現在のスポーツクラブがボランティア活動に支えられているのはこれまでに培われてきた地域の底力があるからです。



小・中・高・大学生・壮年入り混じっての紅白試合(野球クラブ)

クラブの副事務局長を務める澁谷直子さんは、「クラブができて、地域の人がスポーツや文化活動に参加してくれたことで、高齢者中心のクラブに中学生が参加したり、クラブが学校の部活動をお手伝いしたりしながら、地域の人たちと知り合い、つながりが広がりました。これがステップになって子どもも高齢者も共に暮らしやすいコミュニティづくりにつながれば」と話しています。

調和SHC倶楽部

調布

「調和SHC倶楽部」は、平成14年9月に調布市立野川小学校と大町小学校を統合して、PFI方式で新設された調布市立調和小学校周辺の地域の方々を対象とした「総合型地域スポーツ・文化クラブ」と言えます。「だれもが、いつでも、どこでも気軽にスポーツを楽しんだり、健康な体力づくりをしたり、文化的な趣味を増やししながら、地域の一人ひとりの力によって創り上げる」という総合型のクラブとして、平成14年9月28日にスタートしました。子どもからお年寄りまで、世代を超えた地域の人々が様々なスポーツや文化的な活動を通して、地域の人と人との出会いやかかわり合いを築き上げ、連帯感と元気にあふれる地域をつくり出していくことをめざしています。

「調和SHC倶楽部」の名称にある「S」はスポーツ(Sports)、「H」は健康(Health)、「C」は文化(Culture)。これらの頭文字が示すように、活動内容は、スポーツ関係のサークル活動として、卓球、インディアカ、バドミントン、バレーボール、バスケットボールなど、健康関係のサークル活動として、気功、健康体操教室など、文化関係のサークル活動として、絵画、囲碁、将棋、書道など、650名ほどの会員が様々な活動を展開しています。また、地域の小・中学校と連携を図りながら、バドミントンなどの部活動への支援も行っています。さらには、地域住民を対象とした、「ふれあいJAZZワークショップ&LIVE」、「ゴスペルコンサート」、「スポーツ交流大会」など、地域に開かれたクラブとして幅広い活動を展開しています。旧調布市立大町小学校の校舎に設置したクラブハウスを拠点施設としながら、活動会場としては、地域開放校舎として生まれ変わった調和小学校の「アリーナ」「校庭」「温水プール」、旧大町小学校にある「体育館」「グラウンド」などを活用しています。



子どもたちの笑顔がいっぱい～地域運動会

調和SHC倶楽部事務局長の岡本浩史さんは、「スポーツや文化的な活動だけではなく、地域の誰もが気軽に立ち寄れる、出会い、ふれあいの場としての居場所にしていきたい。とりわけ、次世代を担う子どもたちが、地域において、異世代の方々と交流することを通じて、地域への愛着を育てていけるような環境づくりをめざしていくとともに、子どもたちの生き生きとした、元気な声があふれる場にしていきたい」と、今後の抱負を熱く語ってくれました。